

スマート兵庫戦略

～躍動する兵庫～



兵庫県マスコット
はばたん

2022年10月

兵 庫 県

序章 背景

- ▶ 社会情勢 P 3
- ▶ 政府の取組 P 5
- ▶ 本県の動き P 6
- ▶ 現状・課題 P 10

総論 スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

- ▶ 概要 P 12
- ▶ 4つの柱 P 15
 - I 行政のデジタル化 P 16
 - II 暮らしのデジタル化 P 24
 - III 産業のデジタル化 P 35
 - IV デジタル社会を支える基盤を確立 P 43
- ▶ 推進体制 P 49
- ▶ 評価 P 50

- 【参考】用語集 P 51

1 序章 背景 社会情勢①

○ コロナ禍による課題の顕在化

- ▶ **新型コロナウイルス感染症が拡大する中**、ワクチン予約や特別定額給付金等の経済支援がオンラインで効率的に行えないなど、国民生活、企業活動、公的分野などの**多様な分野でデジタル化への課題が浮き彫り**
- ▶ 行政機関の情報インフラの整備が十分でなく、国ー地方、地方ー地方、分野ー分野間での**情報システムが個々にバラバラで十分に連携ができていない課題が顕在化**

▶ **これまでデジタル化が進まなかった分野・領域、またその相互間におけるデジタル化の推進が必要**

○ デジタル社会の実現に向けた課題

- ▶ 通信インフラや民間サービスは相当整備・進化してきているが、デジタルの可能性をフル活用し、地域や社会の成長、県民の暮らしの充実につなげる取組は道半ば

▶ **デジタルを最大限活用して、県民の心豊かな暮らし(Well-Being) やサステナブルな社会を構築する取組が必要**

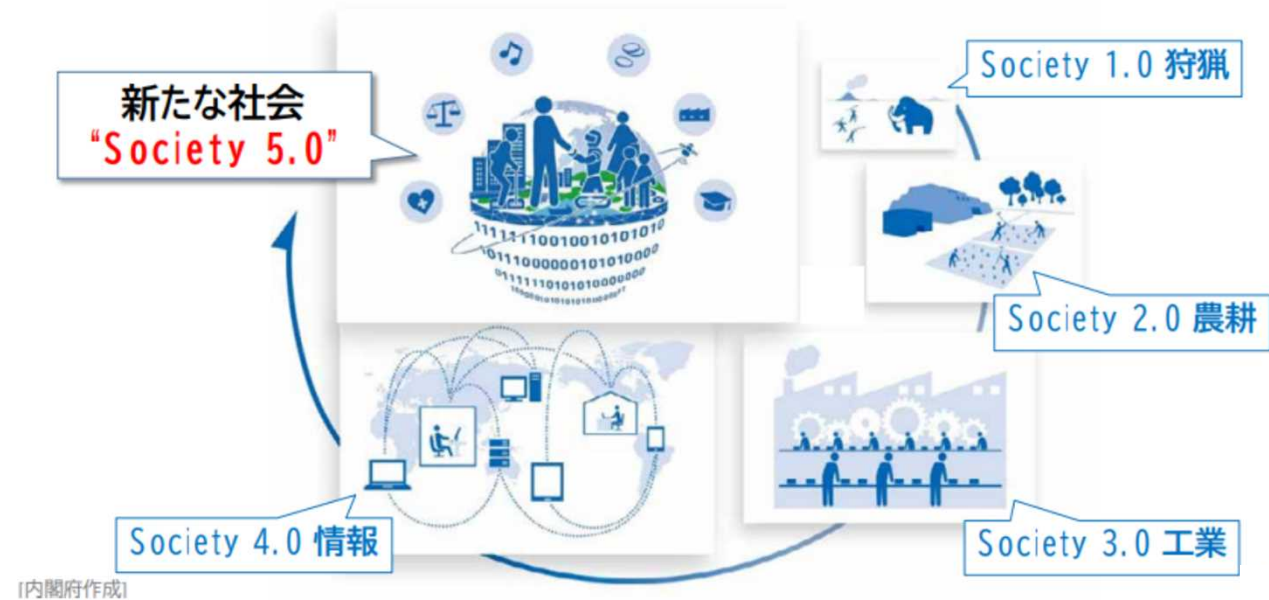
○ 情報セキュリティ対策の必要性

- ▶ Webサービスの利用や電子決済の普及等に伴い、**情報漏洩事案が近年急増**
- ▶ ロシアによるウクライナ侵攻に伴い、日本へも**サイバー攻撃が増加**

▶ **政府機関、本県における情報セキュリティ対策にも万全を期すことが必要**

○新たな社会 “Society5.0”

- ▶ サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。我が国が目指すべき未来社会として提唱
- ▶ IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出す



○インターネットの変遷

web1.0 (1990年代)
個人がwebで情報発信

web2.0 (2000年代)
SNSが普及し、双方向で交流

web3.0 (現在)
ブロックチェーン技術の活用

- ▶ データの耐改ざん性が高く証跡の確保に優れるとされる**ブロックチェーン技術**をもとに、デジタル資産の唯一性と取引の真正性を証明し取引を行う**NFT市場**が注目
- ▶ 政府は、「**デジタル社会の実現に向けた重点計画**」において、「**Web3.0**」の推進に向けた環境整備に言及



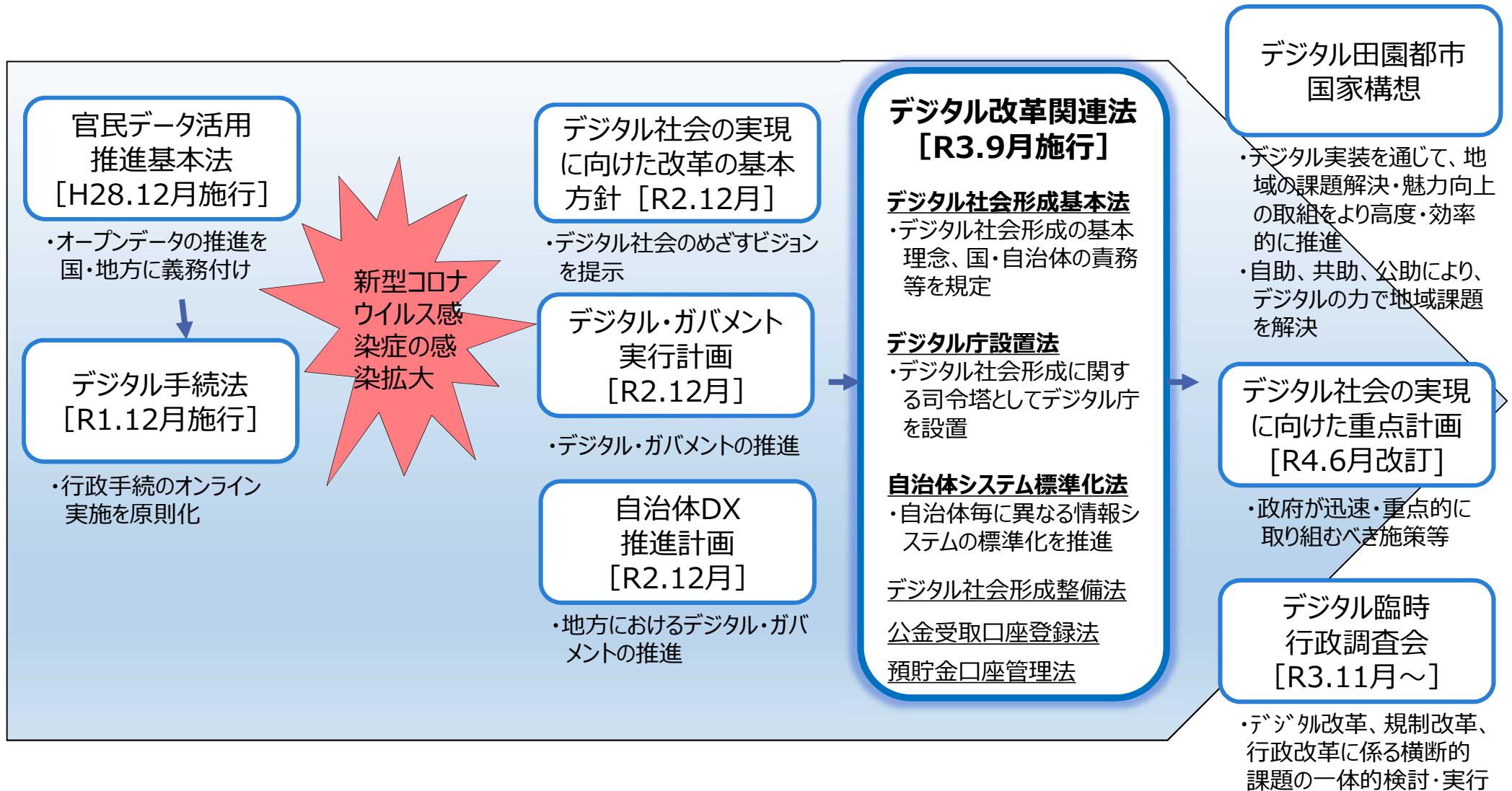
仮想空間としてのメタバース
(出典：バーチャル渋谷HP)

めまぐるしく進展する技術革新に対応し、社会課題の解決や一人ひとりに最適化されたサービス提供につなげる必要がある

1 序章 背景 政府の取組

○ 政府の主な法・計画等

▶ デジタル社会の実現を目指し、取組を加速化するためには、デジタル田園都市国家構想の実現をはじめ、国・県・市町が連携し、一体となって取り組むことが必要

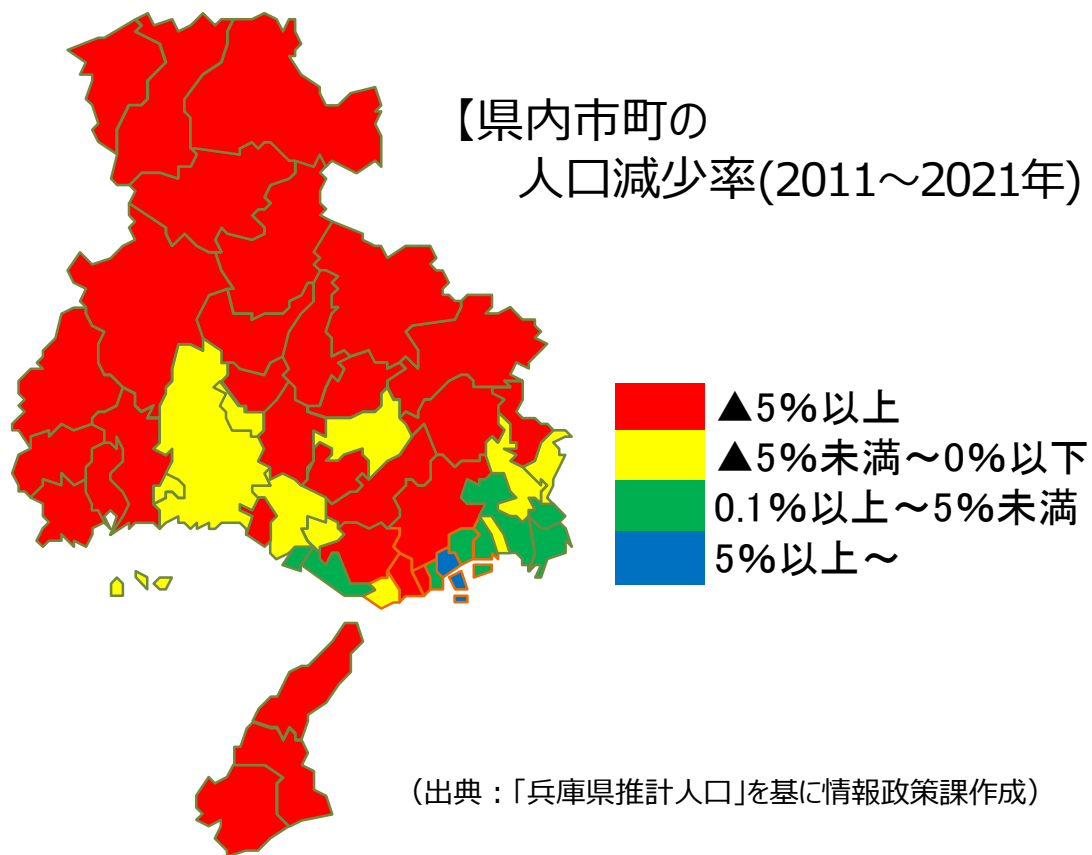


○ 県内の人口偏在の顕在化

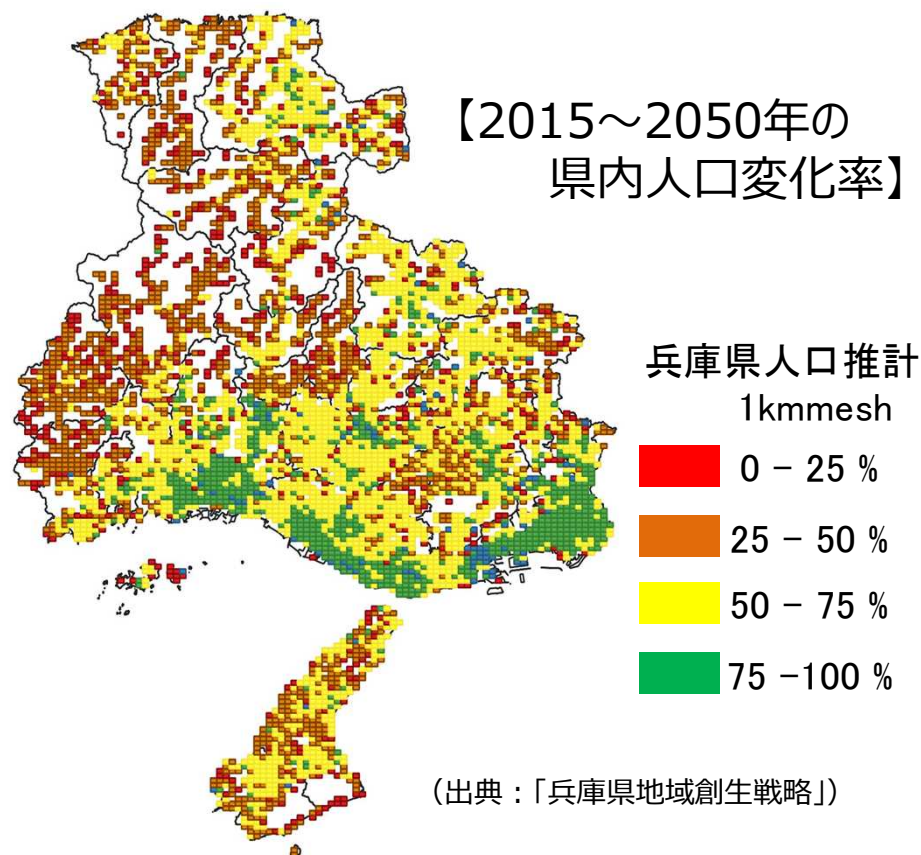
- ▶ この10年間で、但馬地域や淡路地域では10%以上減少した一方、神戸・阪神地域や東播磨地域はほぼ横ばい
- ▶ 人口減少率が高い地域の活力低下が喫緊の課題

➡ **広大な県土を有し、人口偏在が進む本県においては、多様な地域課題が存在し、この解決には、ICT・データの活用が必須**

【県内市町の人口減少率(2011~2021年)】



【2015~2050年の県内人口変化率】



1 序章 背景 本県の動き② 「ひょうごビジョン2050」の策定 i

▶ 本県の新たな将来ビジョンとして、「ひょうごビジョン2050」が策定（R4.3月）

▶ ビジョンが目指す“躍動する兵庫”に向け、個人・企業・行政等あらゆるレベルでデジタル化が進み、県民誰もがデジタルの恩恵を享受し、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができる社会の実現が求められる

【「ひょうごビジョン2050」との主な対応関係】

「ひょうごビジョン2050」のめざす姿

ビジョンで描かれるデジタル化の姿

I 自分らしく 生きられる社会	① 自由になる働き方	① 働き方の自由度が高まり 、地域の多様性を活かして、いろいろな場所で働くことができる
	② 居場所のある社会	② 地域に リアルとバーチャル でつながる様々な集いの場があり、住民が 多様なコミュニティに関わる ことで居場所と役割を見いだす
	③ 世界へ広がる交流	③ 地域の文化や景観、産物の魅力が兵庫から世界に発信され、兵庫の 人材・企業が世界で活躍 し、世界と双方向の交流ができる
II 新しいこと に挑戦できる社会	④ みんなが学び続ける社会	④ ICTを最大限に活用することで、誰もが学びたいときに学べ、 学びの選択肢 が広がり、子どもたちが自発性や創造力を育み個性を伸ばすことができる
	⑤ わきあがる挑戦	⑤ 実験が可能な多様性、超高速の通信基盤などの環境が整うことで、国内外から 起業をめざす人材 が集まり、新しい事業に挑める
	⑥ わきたつ文化	⑥ 体験価値を提供するクリエイティブ産業が育ち、兵庫の ものづくり産業、地場産業が進化 し、新たな価値によって世界を魅了する

「ひょうごビジョン」
2050のめざす姿

ビジョンで描かれるデジタル化の姿

<p>Ⅲ 誰も取り残されない社会</p>	<p>⑦ みんなが生きやすい地域 ⑧ 安心して子育てできる社会 ⑨ 安心して長生きできる社会</p>	<p>⑦ ICTの活用や産業と福祉の連携により、誰もが快適に過ごせ、持てる力を発揮し、ユニバーサルデザインが隅々まで浸透する ⑧ 柔軟な働き方や地域の緩やかなつながりにより、子育て家庭が支えられ、地域に見守られながら誰もが安心して子育てができる ⑨ データを活かした健康づくりや介護ロボット等の活用が普及し、何歳まで生きても、住み慣れた地域で安心して暮らせる</p>
<p>Ⅳ 自立した経済が息づく社会</p>	<p>⑩ 循環する地域経済 ⑪ 進化する御食国 ⑫ 活動を支える確かな基盤</p>	<p>⑩ 兵庫の企業がデジタル化・データ活用により新たな価値を生み、地域に根付くものづくり産業が先端技術と融合して進化し、地域経済を牽引する ⑪ 農林水産分野で超省力・高品質の食料生産体制が広がり、五国の特性を活かした多様な農業が展開され、地域に豊かな食が行き渡る ⑫ 自動運転・MaaSの仕組みが整うことで移動手段が確保され、又、ICTを活用した高度な防災・減災対策が浸透し災害に強いまちづくりが進む</p>
<p>Ⅴ 生命の持続を先導する社会</p>	<p>⑬ カーボンニュートラルな暮らし ⑭ 分散して豊かに暮らす ⑮ 社会課題の解決に貢献する産業</p>	<p>⑬ 地域のエネルギー自給によって、スマートコミュニティが広がり、自然豊かな兵庫で持続可能性を高める取組が普及する ⑭ 自治体運営のデジタル化が進み、人口の大都市集中が緩和し、ワーケーション・二地域・多拠点の暮らしが広がるなどライフスタイルが多様化する ⑮ 先端科学技術に関わる企業が集積し、ものづくり産業が新たな分野に進出することで、新技術の実装に向けた様々な社会実験が行われる</p>

1 序章 背景 本県の動き③ 県民意識調査

- ▶ コロナ禍を受け実施された県民調査(R2.9月)の回答者の約9割が「**社会は変わるべき**」と回答
- ▶ 変わる必要がある上位3項目は「**働き方**」「**感染症対策**」「**政治・行政**」
- ▶ 「働き方」に対して**テレワークの定着**、「政治・行政」に対して**行政の組織運営や事務処理の抜本的改革**や**行政のIT化の遅れ**が指摘

地域住民までデジタル化を浸透させるため、地域を起点にしたアプローチが必要

- 今回の事態を受けて、社会のあり方は変わるべきだと思うか。 どのような方向に変わるべきか。

選択肢	回答者数	構成比
大いに変わるべき	503	40.2%
多少は変わるべき	582	46.6%
どちらともいえない	103	8.2%
特に変わる必要はない	62	5.0%
	1,250	

- 特に変わる必要があると思うものは何か。

順位	項目	件数	構成比
1	働き方	477	21.0%
2	感染症対策	353	15.6%
3	政治・行政	275	12.1%

項目	内容
働き方	テレワークの定着
感染症対策	手洗い・うがいの励行、感染症の正しい知識の普及、地震・風水害対策並の感染症対策
政治・行政	行政の組織運営や事務処理の抜本的改革、行政のIT化の遅れ

(出典) 県民モニター臨時アンケート調査結果
-今般のコロナ禍の影響と今後の展望- (R2.9月)

○ ひょうご・データ利活用プラン (2019～2021年度)の推進

県民が創造的活動に最大限能力を発揮できるデジタル社会～スマート兵庫～を構築し、“**産業のイノベーションの創出**”、“**多様で質の高い暮らし**”を実現するため

民・産・学・官の各主体が、最先端のICTを基盤に、多種多様なデータの利活用に取り組み指針として策定し、デジタル施策を推進

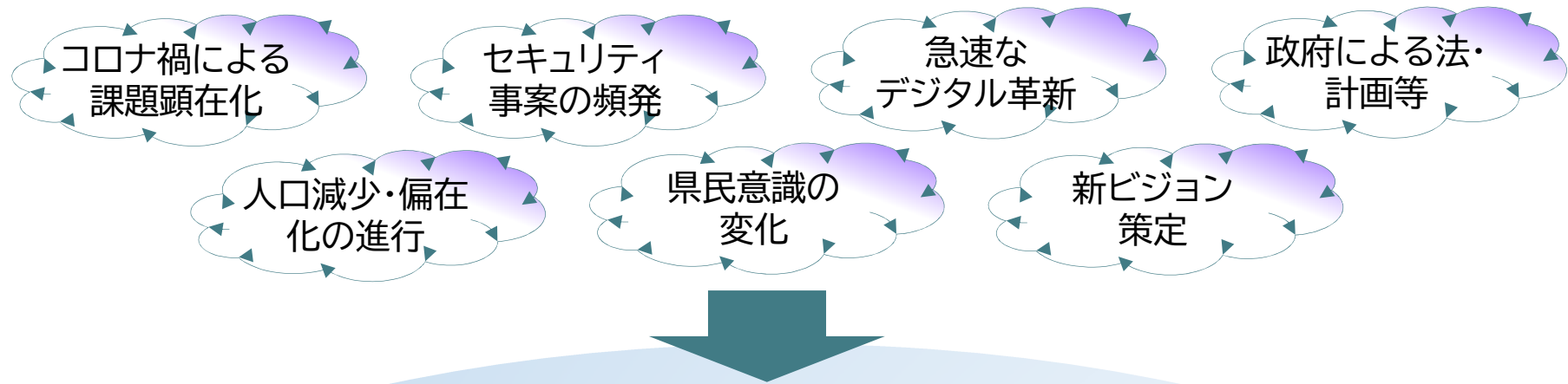
【位置づけ】

- ▶ 民・産・学・官が I C Tとデータ利活用の方向性を共有するビジョン
- ▶ 「官民データ活用推進基本法」に基づく県の官民データ活用推進計画

【推進期間】 2019～2021年度

【重点方針】

- ① **イノベーションの創出** (健康・医療データ等の集積・利活用、ドローン活用支援)
- ② **パフォーマンスの向上** (AI・IoTの導入支援、遠隔授業の実施)
- ③ **デジタル社会を支える基盤の強化** (情報格差の是正、公衆無線LAN)
- ④ **デジタル行政の推進** (AI・RPA等の活用、システムのクラウド化)



県全域でのデジタル実装の加速化に向け、 「スマート兵庫戦略」を策定(現行プランの改訂)

【策定に向けた考え方】 (推進期間(3年間)でひょうごビジョン2050の実現に向けた基礎を構築)

- **市町連携・公民連携**の基礎を構築し、取組を推進
広大な本県における、多種多様な地域課題を解決するには、市町、企業、団体、大学など様々な主体と連携する必要
- **行政デジタル化**の加速・確立
 - ・県民との接点である行政のデジタル化をいち早く進め、デジタル化を県民が実感
 - ・デジタル社会形成に向け必要な基盤等を整備
- **進捗状況**の評価
実効性確保のため評価指標(KPI)により定期的に進捗状況を把握し進める

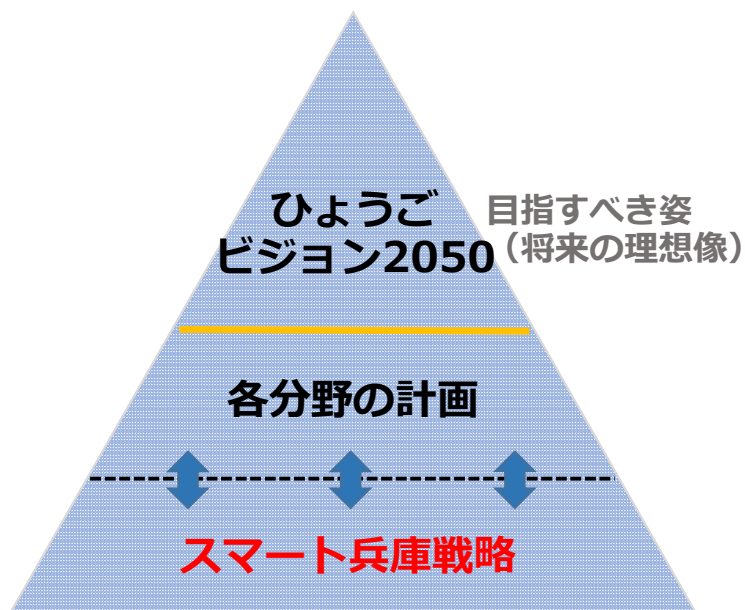
➤ 目的

県全域で**デジタル実装を加速化**し、
県民誰もが**デジタルの恩恵を享受**でき、
自らのニーズに応じた**サービスを選択**できる「**スマート兵庫**」の実現

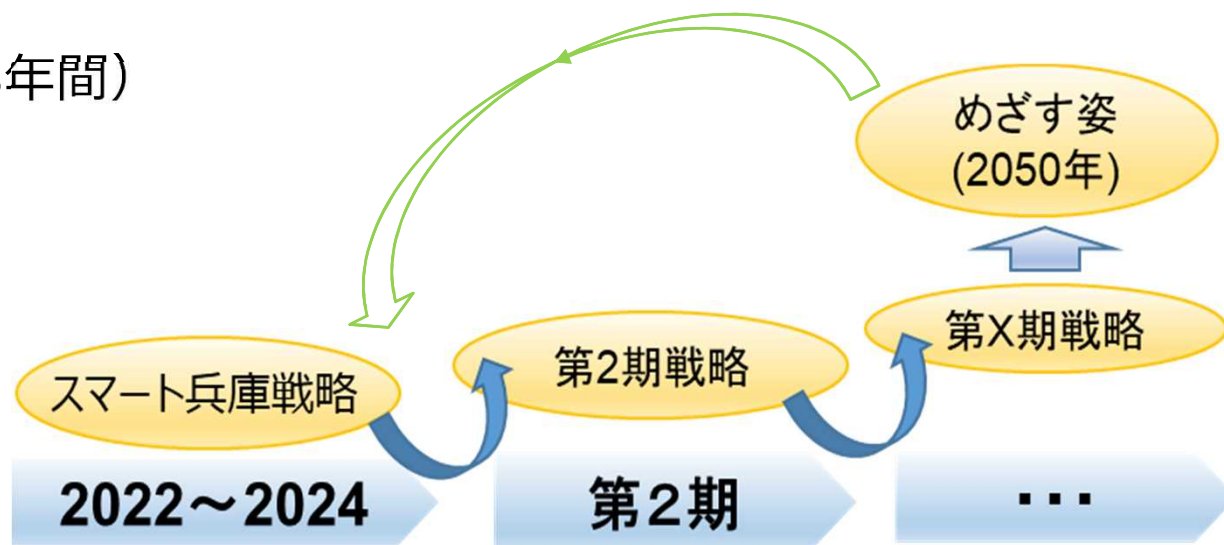
➤ 位置づけ

「ひょうごビジョン2050」のデジタル分野の実行プログラム
官民データ活用推進基本法に基づく「官民データ活用推進計画」

➤ 推進期間 2022～2024年度（3年間）



- ・各分野の計画をデジタルの観点から下支え
- ・相互に関連



この3年間で

- ・市町連携・公民連携の基礎を構築
- ・行政デジタル化の確立

【戦略の基本姿勢】

▶ データ活用による変革

重要性・多様性・容量が増大する「**データ**」を効果的に生成・収集・利活用、新たな価値を創出

▶ バーチャル空間の徹底活用

バーチャル空間を最大限活用、時間と空間の制約を超えた、自由度・満足度の高い暮らし・働き方の実現

▶ 多様な主体との連携

企業、団体、大学、市町など**多様な主体との連携**や**県民の参画**により、デジタルの力で地域特性に応じた身近な課題を解決

▶ 機動的で柔軟で継続的な改善

環境やニーズの変化に大胆かつ弾力的に対応できるよう、**機動的・柔軟で継続的な改善**を可能とし、**データを活用して施策の点検と見直しをスピーディに**繰り返す

▶ 誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化

使いやすさ(UI)・使い心地の良さ(UX)の実現、**利用者目線**に立った**利活用性** (アクセシビリティ) に最大限配慮

【戦略の全体像】



県・市町・民間が連携し、行政、暮らし、産業のシームレスなデジタル化を進めることにより、**躍動する兵庫**をめざす





I 行政のデジタル化



利用者視点のサービス提供や業務プロセス改革による業務効率化を徹底し、県民満足度を向上

利用者視点の行政サービス

自治体運営の透明化



II 暮らしのデジタル化



リアルとバーチャルでつながり、誰でも健康で快適な暮らしを享受し、心豊かな暮らし(Well-Being)を実感

健康・医療・介護

教育・子ども

モビリティ・インフラ



III 産業のデジタル化



生産性向上や新たな価値創造 (innovation) を促し、内外からの投資、誘客・交流を促すことで、持続可能な環境・社会・経済 (sustainability) を実現

ものづくり

農林水産

エネルギー



IV デジタル社会を支える基盤を確立



多種多様な環境やニーズを踏まえ、誰もが、いつでも、どこでも、デジタル化の恩恵を享受できる基盤を確立

デジタル基盤

デジタルデバイス



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～ I 行政のデジタル化

取組方向①

サービスデザイン思考とアジャイル開発のもと、
質の高い行政サービスを提供する

▶ いつでも、どこでも、簡単に、手続きできる行政サービスを実現し、県民の満足度を高める

▶ マイナンバーカードの普及と利活用を推進し、

行政手続の簡素化・迅速化等により県民の利便性の向上を図る

▶ デジタル技術を活用し、増大する行政需要に迅速かつ柔軟に対応する



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

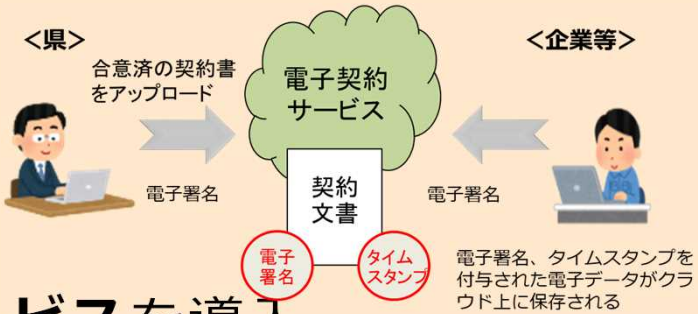

I 行政のデジタル化

取組事例	内容
行政手続オンライン化の推進	<ul style="list-style-type: none">□ 県民の利便性向上と職員の事務効率化を目指し、効果性・実現性の高い手続からオンライン化を推進<ul style="list-style-type: none">(1) 主要手続(処理件数年間400件以上)は全て ※国の対応や、書面・対面が必要な手続を除く(2) 全手続では、新たに約4,000手続をオンライン化□ ユーザー意見を踏まえ、継続的に改善し、オンライン利用率を向上□ 書面・押印・対面等の規制見直し等、業務プロセス改革（BPR）を実施□ 業務特性や費用対効果を勘案して、最適なオンライン化手法を選択□ 各手続に最適な本人確認手法（電子署名、ID及びパスワード等）を選択□ 手続の特性を踏まえ代理申請を可能とする機能を実装□ デジタルデバイス対策として、県民が利用できるタブレット端末の配置や高齢者等に配慮した設計を実施



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

I 行政のデジタル化

取組事例	内容
<p>電子契約・電子公印の導入推進</p>	<p>企業等と県が締結する契約 手続のデジタル化により、 印刷・郵送・移動・保管 コストなどを削減</p>  <p>□ 電子署名を活用した 電子契約等クラウドサービスを導入</p> <p>□ 公印制度の見直し(省略、電子公印の導入等)を検討</p>
<p>キャッシュレス決済の推進</p>	<p>□ 収入証紙による手数料納付の電子化</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(1) 主要手続（処理件数年間50件以上）は全て ※国がシステムを整備予定の手続等は除く</p> <p>(2) 全手続では350手続に導入（R5年度末目標）</p> </div>  <p>□ 行政窓口における支払のキャッシュレス化 （R4.11月頃より7カ所で試行的に導入）</p> <p>□ 納入通知書の電子納付を検討</p>
<p>マイナンバーカードの普及及び利活用促進</p>	<p>国が推進するマイナンバーカードの更なる普及に向けた取組に併せ、取得を促進</p> <p>□ 出張申請サポート窓口の設置</p> <p>□ 図書館カードとマイナンバーカードのワンカード化 （未対応の市町(R3年度末時点:13市町導入済)を対象にシステム改修を支援)</p>

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～ I 行政のデジタル化

取組方向②

行政のワークスタイルを変革し、事務効率化を推進する

▶ ICTツールの有効活用により作業時間を削減し、事務を効率化する


▶ ペーパーレス・ストックレスを推進し、会議の質の向上や
職員のクリエイティブな時間の更なる創出を目指す

▶ デジタル環境を整備し、働き方の自由度や働きがい、
モチベーションを高める



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

I 行政のデジタル化

取組事例	内容
『デジCanプロジェクト』の推進 (定型業務の効率化)	<p>□ AIチャットボット(よくある問合せの自動応答)、RPA(パソコン操作の自動化技術)の活用促進、ノーコードツール(業務アプリの内製開発)等の活用により定型業務を効率化</p> <p>【AIチャットボット】 学生支援、移住相談等 7業務(R4年度未見込) 【RPA】 Excel集約、メールの振分保存等 131業務(R4年度未見込) 【ノーコードツール】 新型コロナ対策業務等 34業務(R4.6月末時点)</p> <p>□ 庁内向け情報誌「デジCanマガジン」、掲示板、研修等により、職員のICT活用による業務改善を促進</p>
会議のクオリティ向上	<p>ペーパーレス会議システムやタブレット・大型モニターの活用による会議のペーパーレス化や、テレビ会議システム、会議録作成支援システムにより会議の質を向上</p> 
兵庫スマートワークプレイスの実現	<p>柔軟で自由に働けるオフィスを構築し、新たな働き方を支えるデジタル環境を整備</p> <p>【検討例】 メタバースオフィスの整備、フリーアドレス導入 等</p>

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～ I 行政のデジタル化

取組方向③

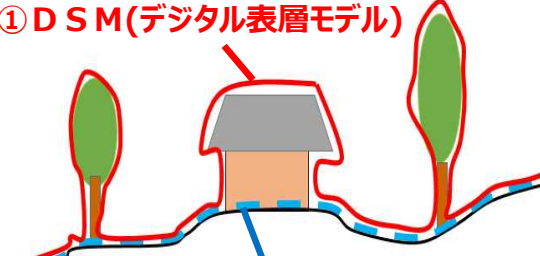

自治体運営の透明化を進め、多様な主体との協働につなげる

- ▶ オープンデータを推進し、自治体運営を高度化・効率化・透明化する
- ▶ 民・産・学・官によるデータ利活用を促進し、協働・連携による社会課題の解決につなげる
- ▶ DX人材を育成し、データ等に基づいた政策形成による良質な行政サービスを提供する



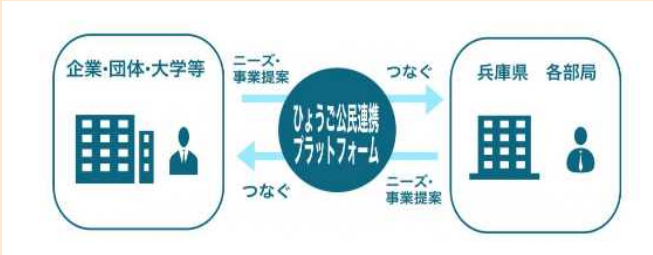
スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

I 行政のデジタル化

取組事例	内容
オープンデータの推進	<ul style="list-style-type: none"> □ 県が保有する多種多様なデータを県HP内で公開する カタログサイトを充実 (R4.6月末時点 367データセット) □ 県内市町によるオープンデータの取組を促進 (R4.3月末時点 30市町) □ 県勢に関するオープンデータを直感的にわかりやすいグラフ・表や地図で表示しWEBサイトで公開 【県勢ダッシュボード 公開データ】 月別推計人口、推移将来推計、人口健康データ、交通事故発生状況 □ 全国で初めて全領域の1mメッシュ高精度3次元地理空間データを公開 ※50センチメッシュデータの公開も予定 【公開データ】 ①DSM(デジタル表層モデル) ②DEM(デジタル標高モデル) ③CS立体図(曲率・傾斜の立体図) 【活用事例】 ・山地防災・土砂災害対策のための地形解析・調査 ・洪水浸水範囲のシミュレーション ・画像データによる遺跡調査等 等
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div data-bbox="840 1189 1411 1508" style="text-align: center;"> <p>① DSM(デジタル表層モデル)</p>  <p>② DEM(デジタル標高モデル)</p> </div> <div data-bbox="1534 1189 2049 1508" style="text-align: center;"> <p>③ CS立体図(曲率・傾斜の立体図)</p>  </div> </div>

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

I 行政のデジタル化

取組事例	内容
ひょうご公民連携プラットフォームの機能拡充	<p>公民連携による地域活性化や情報発信を推進するため、企業からの提案、各部局との連携実績など<u>県の情報をアーカイブ化できるシステム</u>を構築。 県と企業等のマッチングや連携事業の具体化を促進</p>  <p>The diagram illustrates the Hyogo Citizen Collaboration Platform. It shows a central blue circle labeled 'ひょうご公民連携プラットフォーム' (Hyogo Citizen Collaboration Platform). To the left, a box labeled '企業・団体・大学等' (Companies, Organizations, Universities, etc.) contains an icon of a building and a person. To the right, a box labeled '兵庫県 各部局' (Hyogo Prefecture, Various Departments) contains an icon of a building and a person. Two blue arrows labeled 'ニーズ・事業提案' (Needs/Business Proposals) point from the left box to the central circle and from the central circle to the right box. Two blue arrows labeled 'つなぐ' (Connect) point from the central circle back to the left box and from the central circle back to the right box.</p>
兵庫版シビックテック「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」	<p>市町等から寄せられた地域課題解決に、<u>県内の社会課題解決型スタートアップ事業者</u>等が有する情報通信技術等を活用 ※有用な解決技術を持つ事業者をマッチングし、協働で実証実験を実施</p>
EBPMの推進	<ul style="list-style-type: none">□ 複数データを地図上にクロス表示し高度な分析・可視化に活用できる<u>GIS(地理情報システム)ソフト</u>により、政策立案への活用を促進 【活用事例】・急傾斜地崩壊対策事業における崖の高さや勾配等の確認 ・豚熱等の感染症発生地点のマッピング 等□ データ利活用研修を階層別実施し、データ等の合理的根拠に基づく<u>政策立案</u>を推進

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組方向①


医療・福祉分野へのICT活用により、
ライフステージに応じた健康で快適な暮らしを実現する



- ▶ 兵庫に集積する健康医療産業の技術を活用し、より高度なサービスが提供できる医療先進地を目指す
- ▶ 多様なデータを活用し、県民の生活習慣の改善や健康寿命の伸長につなげる
- ▶ ICT機器や医療・介護用ロボット等により、どこにいても適切な医療や介護サービスが受けられる
- ▶ 子育て親子をSNSを活用し支援する等、地域とのつながりが持てる社会をつくる



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組事例	内容
ビッグデータを活用した個別要介護リスク予測AI開発	医療や介護、健診等にかかる <u>高次元統合ビッグデータ（38万人分）</u> を活用し、個別に要介護のリスクを予測できるAIを開発
ICTを活用した循環器病医療連携ネットワークの構築	循環器病の急性期機能を有する医療機関※において早期の専門的治療を実施するため、関係医療機関をICTで繋ぎ、 <u>患者の画像データ等をリアルタイムで共有</u> する医療連携ネットワークを構築 ※ 3次救急病院及び循環器の急性期医療を担う2次救急病院等(対象65施設)  <p>この時間を短縮</p>

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組事例	内容
遠隔医療の推進	<p>□情報通信機器を活用することで、医師対医師(DtoD)の遠隔医療を推進。病理画像、動画等を遠隔地の医療機関に伝送し、画像診断、病理診断、テレコンサルテーション・カンファレンス(遠隔会議)等、専門医の適切な診断・助言を得る。</p> <p>□地理的理由等で往診・通院が困難な患者にテレビ電話等の機器貸与により過疎地など遠隔地からの診療を支援</p>  
ロボットリハビリテーションの推進	<p>福祉のまちづくり研究所を核として、ロボットリハビリテーション(電動義手やロボットスーツなど対象者自身の身体に装着し使用する人間装着型ロボットを活用したリハビリ訓練等)を着実に実施。</p> <p>また、最先端技術を活用した医療・介護用リハビリロボット及び見守りシステム等福祉機器の研究開発・実用化を推進</p>

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組方向②


子どもの個性を伸ばす教育を行うとともに、
生涯を通じた学びの選択肢を広げる

- ▶ ICTツールを最大限に活かし、
一人ひとりの個性に合った最適な学びを実現する
- ▶ 遠隔・オンライン教育を活用し、学びにおける時間・距離の制約を取り除く
- ▶ 誰もが学びたいときに学びたい場所で学べるよう、リカレント教育にICTを活かす



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組事例	内容
GIGAスクール構想の推進	<ul style="list-style-type: none">□ 1人1台端末と兵庫情報ハイウェイに接続する校内通信LANを一体的に整備□ 多様な子どもたちのニーズや学習状況に応じた双方向型の学習を可能とし、資質・能力が一層育成できるICT環境を実現
プログラミング教育の推進	<p>小・中・高等学校を通じて、これからのデジタル社会に不可欠なICT利活用力を育むため、小中9年間のモデルカリキュラムや指導案、授業解説、教材、校内研修資料をセットにした『兵庫県版プログラミング教育スタートパック』を作成し、活用を推進</p>  <p>(出典：『兵庫県版プログラミング教育スタートパック』)</p>
生涯学習施設等におけるICT利活用	<p>学びが、生きがい、仲間づくりにつながられるよう、県の生涯学習施設等において、リモート受信講義を行うなど、ICTを利活用し講座内容を充実</p>

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組方向③

災害時等においても、安全で安心な暮らしを確保する

- ▶ 阪神・淡路大震災をはじめ過去の災害等により兵庫が培った経験を活かし、ハード・ソフト両面から、防災・減災対策を進める
- ▶ 情報収集力を強化し、事故や犯罪の少ない安全な基盤を整える



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組事例	内容
防災情報の的確な発信	<p>□ 県民への情報発信 災害時における県民の的確な避難行動を支援するため、CGハザードマップをプラットフォームとして、洪水・高潮浸水想定区域や土砂災害警戒区域等とともに、河川ライブカメラ画像によるリアルタイム情報、2時間先までの土砂災害危険度情報を発信。急激な水位上昇が見込まれる河川では、大雨洪水注意報・警報発表時に回転灯で警告する増水警報システムを運用</p> <p>□ 市町への情報提供 市町による避難指示等の発令を支援するため、6時間先までの河川の氾濫予測情報を配信するとともに、出水時に河川の水位変化や見通しを市町長等に直接伝える河川情報ホットラインを構築</p>




河川ライブカメラ画像



土砂災害危険度情報

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組事例	内容
防災システムの活用による情報収集力強化	<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="728 308 1579 758">□フェニックス防災システム 地震災害だけでなくあらゆる災害に迅速に対応できる総合的な防災情報システムを運用。気象観測情報の提供に加えて、被害予測、災害速報・総括など災害対策本部の意思決定を支援するとともに、関係機関との情報共有に利用<li data-bbox="1585 373 2110 719"><li data-bbox="728 786 2094 1125">□SNS情報収集システムの強化 Twitterに加え、Facebook、Instagram等のSNSに投稿された県内の災害情報を、AIが解析・抽出するシステムを導入。職員が現場に駆け付けるよりも早く、緊急性・正確性・信憑性の高い情報(位置・映像・画像)を収集し、救出・救助活動など、災害発生時の初期対応に活用<li data-bbox="728 1153 2094 1476">□遠隔情報共有システム(Hec-Eye) 消防団員等が災害現場で収集したスマホやドローン等の動画・写真をスマホの簡単な操作で登録。その内容を電子地図上に自動で表示・整理する機能を、フェニックス防災システムに導入。県内各地の被災状況を迅速に収集・共有し、災害発生時の初期対応に活用

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～ Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組方向④

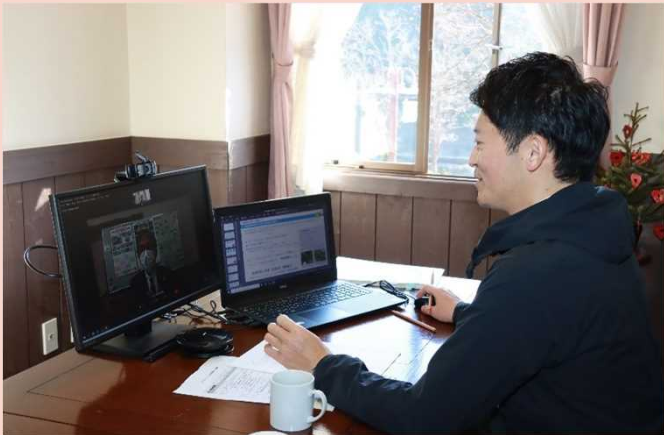
国内外との双方向の交流を深め、多様な暮らしや働き方を広げる

- ▶ 五国の魅力発信、ワーケーションの推進により、国内外から観光で兵庫を訪れ楽しんでもらう
- ▶ 先端技術を用いた交流により、地域課題解決や新たな価値の創出につなげる
- ▶ MaaS等デジタルを活用したモビリティサービスを推進し、移動・交通の利便性を向上する





スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組事例	内容
企業のテレワーク、ワーケーションの推進	<p>情報ハイウェイの増強などICT環境の整備等により、時間や場所にとらわれないワーケーション等の<u>柔軟な働き方</u>を推進</p> <p>※県運営の在宅支援システム「<u>テレワーク兵庫</u>」は、中小企業にも提供（R4.6月末時点：351社）</p>  <p>ワーケーション知事室（出典：兵庫県HP）</p>
「兵庫テロワール旅」の推進	<p>兵庫五国の食、周遊等が満喫できる「<u>兵庫テロワール旅</u>」を推進</p> <p>※「テロワール」＝「土地の個性」</p> <p>【実施例】</p> <ul style="list-style-type: none">・「兵庫テロワール旅」のコンセプトや体験コンテンツの魅力等を伝える動画作成及び配信・JR西日本のMaaSアプリ「WESTER」を活用したスタンプラリーの実施によりテロワール旅を体感
eスポーツを通じた地域課題解決への調査・検討	<p>誰もが楽しめる「<u>eスポーツ</u>」の小規模イベント等を公民連携によりモデル的に開催。今後の地域課題解決の可能性を調査・検討</p>

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅱ 暮らしのデジタル化

取組事例	内容
2025「大阪・関西万博」を見据えた取組の推進	<ul style="list-style-type: none">□万博会場から兵庫に人の流れを創出するため、関西パビリオンに「兵庫棟」(仮称)を設置するなど、来場者に、最新デジタル技術を利用した臨場感あふれる展示等を通じて、県内各地で展開するフィールドパビリオンなどの魅力を発信□兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化に向け交流人口を拡大 
空飛ぶクルマの社会実装推進	<p>県及び民間計5者により、空飛ぶクルマの振興を通じた地域創生の取組にかかる協定を締結し、連携を強化。</p> <p>「HYOGO空飛ぶクルマ研究室」の取組を通じ、次世代モビリティとして注目される空飛ぶクルマの社会実装を推進</p>  <p>(出典：経済産業省ウェブサイト)</p>
MaaSの推進	<p>MaaSの導入に向け、地域の公共交通のデータ基盤整備として、コミュニティバスを対象に交通事業者と経路検索事業者等との間のデータの受け渡しを容易にする、標準的なバス情報フォーマット (GTFSデータ)の整備を推進。</p> <p>Googleマップでの検索により、最適な移動手段を示すことを可能とすることで、利用者の利便性を向上</p>

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅲ 産業のデジタル化

取組方向①

世界最先端の科学技術基盤を生かし、
スタートアップや産業の集積を図る

- ▶ 本県に立地する世界有数の科学技術基盤を活用し、
新技術を実装する
- ▶ 様々な実験ができる地域多様性の下、
大学・研究機関等と連携し、兵庫発のイノベーションを創出する
- ▶ スタートアップや成長産業を育成し、
暮らしの持続可能性を高める産業を集積する



大型放射光施設 SPring-8
X線自由電子レーザー施設 SACLA
(出典：理化学研究所)

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅲ 産業のデジタル化

取組事例	内容
<p>スーパーコンピュータ「富岳」の活用</p>	<p>R3年に共用開始したスーパーコンピュータ「富岳」（新型コロナウイルスの飛沫・エアロゾル拡散モデルを構築。今後線状降水帯予測への活用も期待）の立地メリットを發揮し、県外高度人材との技術交流やネットワーク強化により、県内研究機関等における技術者の高度化を図り、先端技術人材の県内集積を促進。 ものづくり、健康医療など幅広い分野で次代をリードする新たな知見やテクノロジーを創出</p> <div data-bbox="1630 480 2078 791" data-label="Image"> </div> <p>©RIKEN 世界最高水準スーパーコンピュータ「富岳」 （出典：理化学研究所）</p>
<p>放射光産業利用の促進</p>	<p>本県に集積する科学技術基盤（SPring-8,SACLA等）を活用し、企業への技術相談・助言や測定・解析受託サービスにより放射光利用を支援。産学官共同研究、県内基幹産業等における新技術・製品の開発や、MI（マテリアルズ・インフォマティクス）の活用を促進</p>
<p>SDGs課題解決を目指す共創プログラム「SDGs CHALLENGE」</p>	<p>県・神戸市等が連携し、グローバルなSDGs課題解決に挑むスタートアップ等を対象に、事業開発、海外実証及び展開を支援</p> <div data-bbox="1541 1326 2085 1501" data-label="Image"> </div>

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅲ 産業のデジタル化

取組方向②

スマート化により農林水産業の効率化や持続的发展を図り、
『御食国ひょうご』の実現を目指す

- ▶ スマート技術の導入が進展し、気候風土が異なる五国の特性を活かした多様な農林水産業が展開する
- ▶ AI・IoTやドローンの活用等により、農林水産業の作業の省力化など生産性向上と製品の品質化等を飛躍的に向上する



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅲ 産業のデジタル化

取組事例	内容
スマート農業技術のマッチングの推進	生産者や企業等が参画するプラットフォーム専用サイトを開設し、 スマート技術情報（産地の課題や企業の技術情報など）を集約・発信 。コーディネーターが 産地と企業をマッチング し、産地の課題に沿った助言等を行う仕組みを構築
兵庫型スマート農業技術導入の推進	AIやドローンによる画像解析技術 等を活用したピンポイントでの農薬・肥料散布や リモコン式自走草刈機 の活用、 自動水管理システム の導入等を支援
ICTを活用した獣害対策の推進	ICTを活用し、イノシシ等の獣害対策における様々なデータを地図上で「見える化」できるように、 被害状況や生息状況、捕獲情報 など一元管理したシステムを整備・運用



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅲ 産業のデジタル化

取組方向③

エネルギー利用の最適化等により、
脱炭素社会(カーボンニュートラル)を実現する





- ▶ 温室効果ガス排出量削減に向け、再生可能エネルギー導入拡大を目指す
- ▶ カーボンニュートラルな資源を有効活用し、エネルギーの地産地消に貢献する
- ▶ 水素関連産業が兵庫に集積し、水素の活用が県民に普及する



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅲ 産業のデジタル化

取組事例	内容
PPA方式による再生可能エネルギーの導入促進	<p>県内企業等への普及拡大に向け、初期投資不要なPPA方式(第三者所有型モデル)を活用し、先行的に県施設等へ太陽光発電設備を導入。併せて、導入施設間の需給バランス最適化等について調査</p>
木質バイオマス有効利用の推進	<p>高齢化の進む里山林の更新を図るため、環境に配慮しながら伐採、チップ化し、地域のバイオマスボイラー（稼働状況の遠隔監視やスマホによる起動・停止が可能）の燃料として活用する実証事業を実施</p> 
ひょうご水素社会の推進	<p>産学官連携で水素社会の実現に向けた気運醸成を図り、淡路島の豊富な再生可能エネルギーから水素を製造、貯蔵し、施設やモビリティに利活用するエネルギー地産地消モデルの構築及び実装に向けた調査等を実施</p> 

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅲ 産業のデジタル化

取組方向④

産業を支える人材がデジタル技術を活用し、持てる力を発揮する

▶ 不足する産業分野におけるデジタル人材を確保・育成する

▶ 中小企業のデジタル化を進め、
生産性向上や技術開発を促進する

▶ 地域に根付くものづくり産業を先端技術と融合、進化させ、
地域経済を牽引する



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅲ 産業のデジタル化

取組事例	内容
<p>兵庫県地域活性化雇用創造プロジェクト</p>	<p>次世代産業分野において、デジタル・トランスフォーメーション（DX）導入に向けたコンサル等の専門家派遣、人材育成研修等の支援を実施 【取組例】 新しいIT技術等で県内各地域の課題を解決するモデルプロジェクトの実証を通じた地域のIT人材育成及びDX推進</p>
<p>中小企業DX人材育成リカレント教育の推進</p>	<p>関西学院大学と日本IBM社が共同開発したAI活用人材育成プログラムに対する補助や、県立大学との連携によるデータサイエンスやデジタルマーケティング等の新たなプログラム提供により、中小企業のDX人材育成を推進</p>
<p>建設業におけるDXの推進</p>	<p>建設業全体の生産性向上を図るため、中小規模工事を含め現場条件に応じた効果的なICT活用の拡充（河川堆積土砂撤去、舗装等）や、測量・設計段階における3次元データの活用など、デジタル化を推進</p>



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～ IV デジタル社会を支える基盤を確立

取組方向①

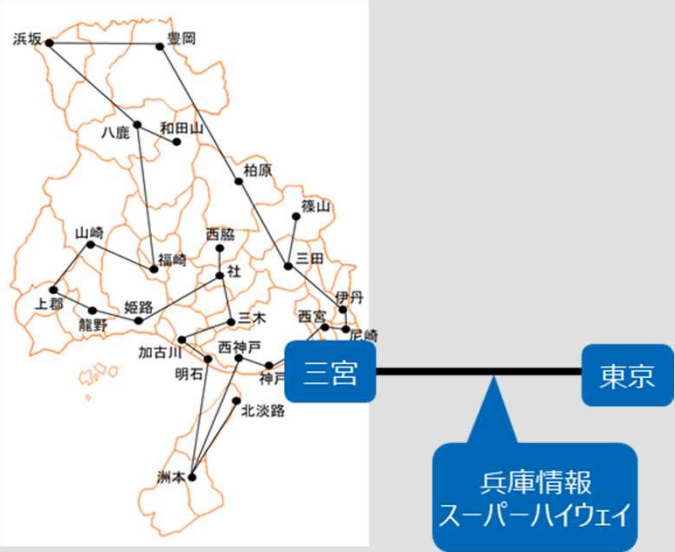

必要な情報・サービスに安全かつ容易につながる ネットワークを構築する

- ▶ いつでも、どこでも、
“つながる”通信ネットワークを整備する
- ▶ 超高速大容量通信基盤を整備し、
自治体や事業者、地域創生の取組に活用する
- ▶ 情報セキュリティ対策を強化し、
不正アクセスや個人情報漏えい等を防止する



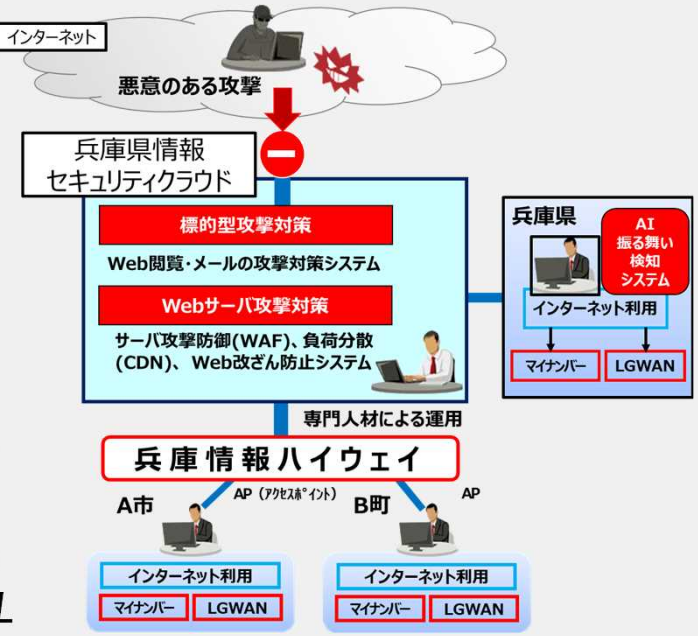
スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

Ⅳ デジタル社会を支える基盤を確立

取組事例	内容
<p>「兵庫情報ハイウェイ」の利用推進</p>	<p>県全域を結ぶ「兵庫情報ハイウェイ」、加えて、東京まで結ぶ「兵庫情報スーパーハイウェイ」を整備・運用。 <u>県庁WANや教育情報ネットワーク</u>等での活用、<u>通信事業者等への回線提供、企業誘致やワーケーション</u>など地域創生の取組への活用等を推進</p> 
<p>5Gの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 5Gアンテナ基地局開設促進に向け、県保有施設情報を公開し、近畿初の通信事業者へのワンストップ窓口を設置 □ <u>スマートファクトリー</u>のデモンストレーション設備の設置、中小企業向けセミナー開催。 <u>AI画像解析によるコーチング、AIカメラ等のスポーツ分野への活用</u> 等の実装を実施 

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

IV デジタル社会を支える基盤を確立

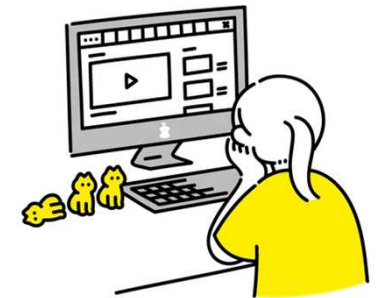
取組事例	内容
<p>「テレワーク兵庫」の推進</p>	<p>感染拡大防止とポストコロナ時代の働き方改革を推進するため、県、市町、学校、中小企業等従事者が利用できるリモートワークシステム基盤（テレワーク兵庫）を整備し、在宅勤務やモバイルワークに必要な環境を提供 （※MacOS、AndroidOSにも対応予定）</p> <p>利用登録者：62,988名（R4.6月末時点）</p>
<p>県・市町情報セキュリティ対策の取組強化</p>	<p>□技術的対策 「兵庫県情報セキュリティクラウド」の運用 県及び市町のインターネット接続口を集約し、インターネットからの標的型攻撃対策等を徹底</p> <p>□組織・人的対策 「兵庫県情報セキュリティ対策指針」の運用 定期的な職員の教育等を実施。今後、外部人材等を活用したセキュリティ監査体制の取組強化を検討</p> 

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～ IV デジタル社会を支える基盤を確立

取組方向②

県内市町をはじめ関係機関との連携を図り、
誰もがデジタルの恩恵を受ける環境を整える

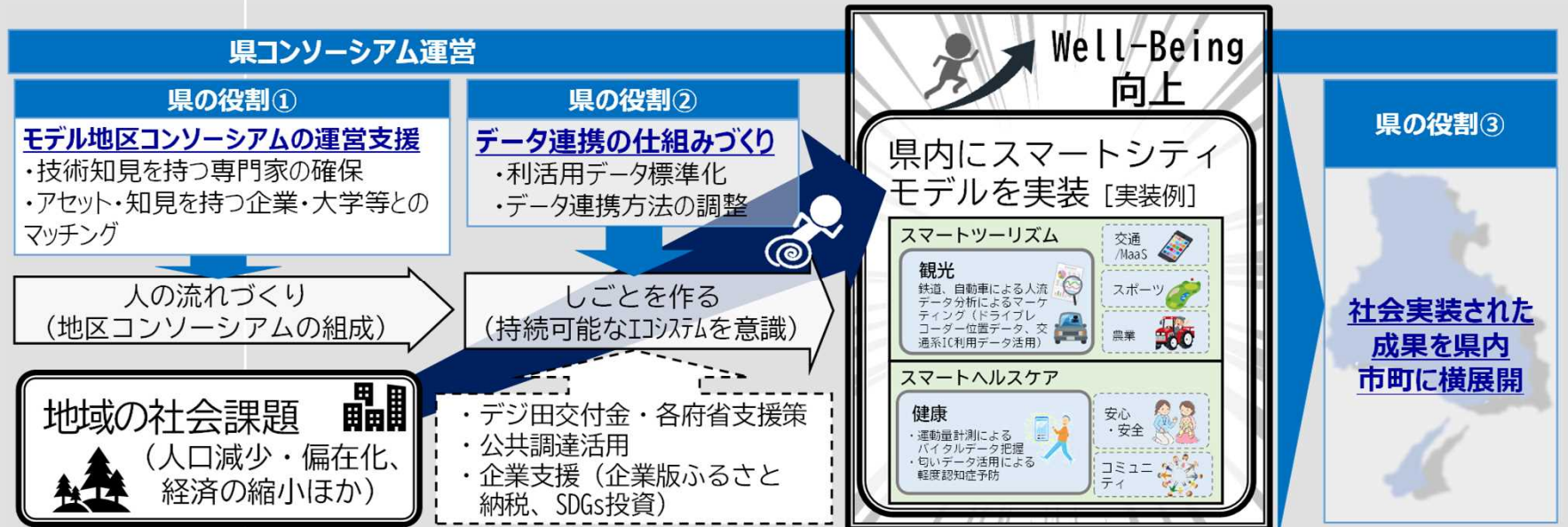
- ▶ 情報や課題を共有し、人材育成など、
県・市町間連携によるデジタル行政を推進する
- ▶ 高齢者や障害者等のデジタルデバイドを解消し、
誰一人取り残されない社会を構築する
- ▶ 青少年の安全・安心なインターネット利用を推進する



スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

IV デジタル社会を支える基盤を確立

取組事例	内容
スマートシティモデル事業	<ul style="list-style-type: none"> □人口減少、経済の縮小等、社会課題の解決に必要とされるスマートシティが注目されているが、エコシステムが確立されておらず、取組は実証レベルどまり □県は、地域課題解決の新たな取組に意欲があり、企業・大学との共創を視野に入れて取り組むモデル地区（市町）を公募 □県コンソーシアムを組成し、市町連携・公民連携により、モデル地区のエコシステムの確立に向け、データ連携基盤（データ連携の仕組みづくり）など県全域のデジタル実装を加速化するための基礎づくりを推進



デジタル田園都市国家構想を県事業が補完（出典：2022/4/4 デジタル田園都市国家構想実現会議（第6回）牧島大臣説明資料をアレンジ）

スマート兵庫戦略～躍動する兵庫～

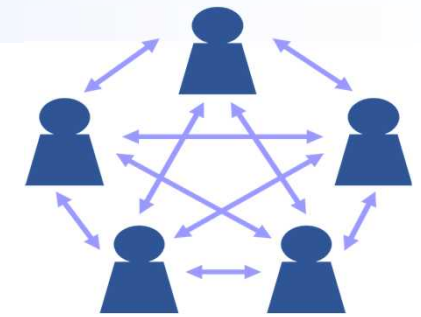
IV デジタル社会を支える基盤を確立

取組事例	内容
<p>県・市町協働によるデジタル化の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 県・市町等で構成する兵庫県電子自治体推進協議会において、人材育成やセキュリティ対策等を含めデジタル化を推進し、県内全域でICTを活用した質の高い行政運営を実現 □ 「地方公共団体情報システムの標準化に関する法律」に基づき、標準化対象業務について国のガバメントクラウド上に構築された標準化基準に適合した情報システムへの移行を進めるとともに、市町の円滑な移行に向け必要な助言と情報提供を行い支援
<p>デジタルデバイス解消プロジェクトの展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 高齢者が身近な場所(公民館等)で行政アプリやスマホ用のWebサイトの使い方を学べる講座を実施。スマホの基本操作や行政サービスの利用を教えることができる人材を養成し、地域での教え合いを促進 □ 障害者を対象としたパソコンやスマホ等の相談に対応する窓口の設置やITスキル入門講座の開催
<p>青少年インターネット利用対策の実施</p>	<p>過度なインターネット利用による健康面への影響や犯罪被害を防止するため、利用のルールづくり支援、SNSを活用した啓発等、年齢層に合わせた幅広い取組を展開</p>

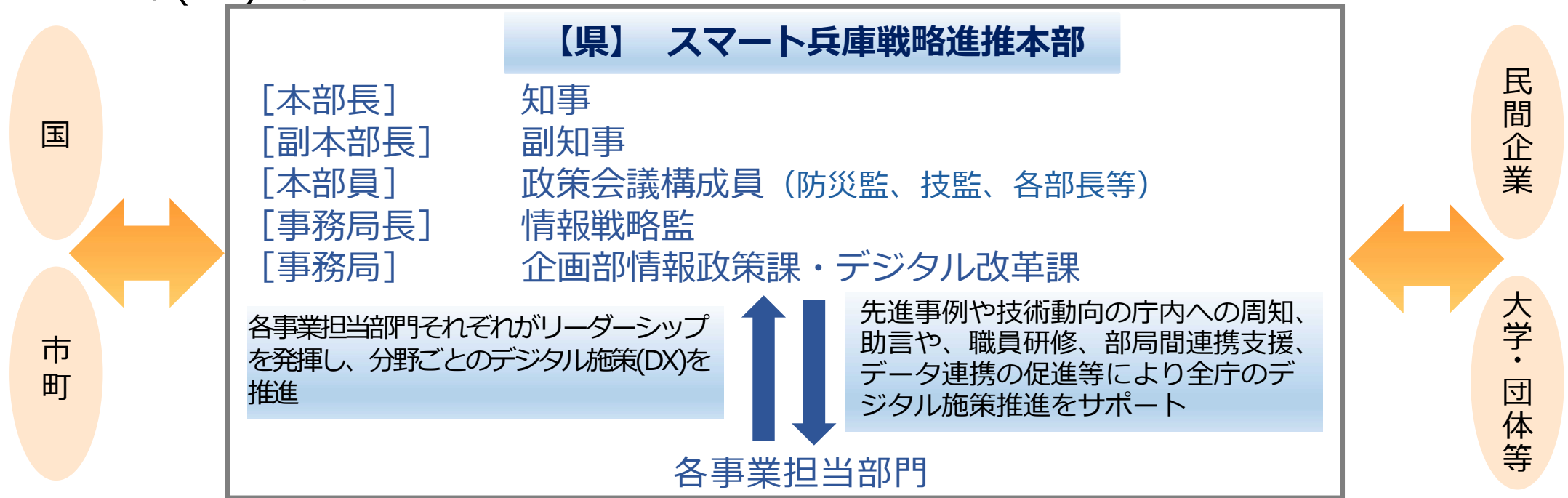


推進体制

- 「スマート兵庫戦略推進本部」(事務局長:情報戦略監)を設置し、県のデジタル施策を全庁横断で推進
- 本部員は、情報部門と事業担当部門の全員がリーダーシップを発揮し、デジタル化の取組を推進
- 情報部門は、
 - ・ 先進事例や技術動向の事業担当部門への周知・助言、部局間連携支援など、事業担当部局への伴走支援により、全庁のデジタル施策推進をサポート
 - ・ 事業担当部門間のデータ連携を促進し、データ分析による政策立案を支援
 - ・ 市町、企業、大学、団体等との連携の枠組をつくり、地域社会のデジタル化を推進
- 事業担当部門は、情報部門や他の部門とも連携し、それぞれの課題に対応した分野ごとのデジタル施策(DX)を推進

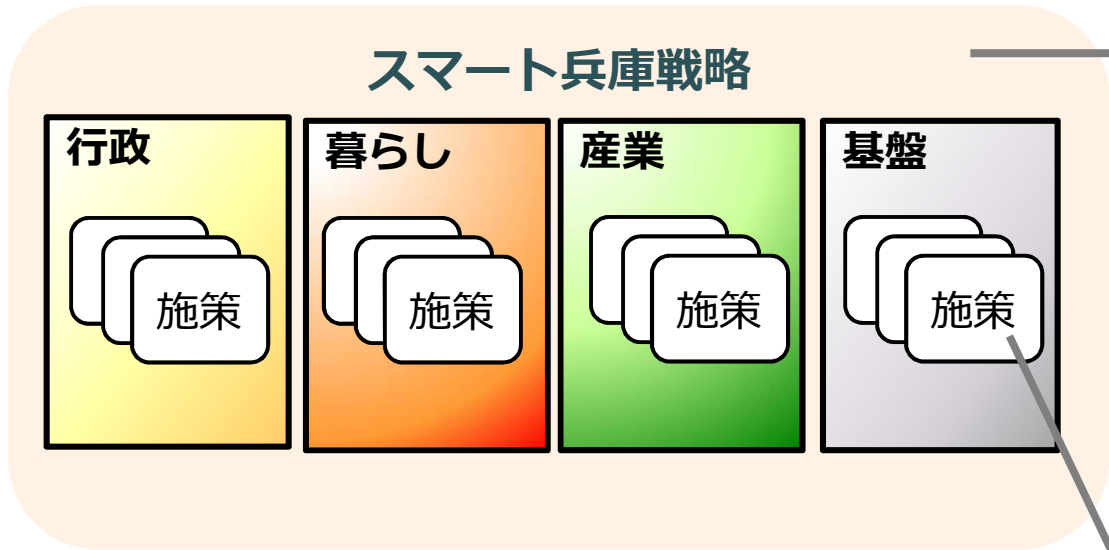


デジタル実装の加速に向け、全員がリーダーシップを発揮



▶ 年度評価

年度ごとに進捗状況をまとめ、有識者の意見を聴取し、客観的な評価を着実に実施



アウトカム

○ 戦略の評価

- ・ 「ひょうごビジョン2050」に係る「兵庫のゆたかさ指標」(策定予定)
- ・ 各分野に係る「基本的な計画」等※の指標

により評価

※「兵庫県地域創生戦略」「健康づくり推進プラン」「ひょうご教育創造プラン」「ひょうご経済・雇用活性化プラン」「兵庫県環境基本計画」等

アウトプット

○ 個別のデジタル施策の評価

KPI(アウトプット指標)により達成状況进行评估

状況の変化等に応じた柔軟な見直し

デジタル化の進展が急速であるため、ICTを取り巻く環境変化、戦略の取組状況、県民ニーズに応じて、外部有識者の意見を踏まえ、**行政の無謬性**にこだわらず、必要な見直しを柔軟に実施する**アジャイル型政策形成**により、実効性を確保

▶ 「行政」「基盤」のデジタル化の進捗状況

早期に確立すべき行政のデジタル化のため、ダッシュボードにより見える化し、県民へ進捗状況を発信

略 称	正 式 名 称
デジタル手続法	情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律 （令和元年法律第16号）
デジタル社会形成整備法	デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律 （令和3年法律第37号）
公金受取口座登録法	公的給付の支給等の迅速かつ確実な実施のための預貯金口座の登録等に関する法律 （令和3年法律第38号）
預貯金口座管理法	預貯金者の意思に基づく個人番号の利用による預貯金口座の管理等に関する法律 （令和3年法律第39号）
自治体システム標準化法	地方公共団体情報システムの標準化に関する法律 （令和3年法律第40号）

用語	説明
A I	Artificial Intelligenceの略。学習・推理・判断などの人間が行っている知的な作業をコンピュータ上で人工的に実現する技術。
A I チャットボット	人工知能を活用した自動会話プログラムで、文章や音声に対し自動で回答・返答。
B P R	Business Process Re-engineeringの略。業務全体を対象として効率や生産性を改善するため、業務全体を抜本的に見直し再構築すること。
D E M、D S M	DEM=Digital Elevation Modelの略。コンピュータで扱えるよう数値的な表現をした地表面の標高からなる三次元データ。DSM=Digital Surface Modelの略。地表面とその上にある地物表面の標高からなる三次元データで、建物や樹木等の高さを含む。
D X	D（デジタル）とX（トランスフォーメーション：変革）を組み合わせた言葉。ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。
eスポーツ	electronic sportsの略称で、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。
E B P M	Evidence-Based Policy Makingの略。政策目的を明確化した上で、合理的な根拠に基づき政策を立案すること。
G I S	Geographic Information Systemの略。地理情報システムのこと。自然、社会、経済等に関するデータを地図上に重ねて表示し、視覚的な管理・分析を可能にするシステム。
G T F S	General Transit Feed Specificationの略。公共交通機関の時刻表とその地理的情報に使用される共通形式を定義したもの。
I C T	Information and Communications Technologyの略。情報通信技術。ITにコミュニケーションの要素を加え、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現。
I o T	Internet of Thingsの略。モノのインターネットと呼ばれ、コンピュータなどの情報通信機器だけでなく、家電、自動車、ロボットなどのあらゆるモノがインターネットにつながり、情報を交換することで相互に制御する仕組み。

用 語	説 明
K P I	Key Performance Indicatorの略。組織としての目標に対する達成度合いを評価する指標。
M a a S	Mobility as a Serviceの略。出発地から目的地までの一連の移動を、電車・バス等様々な種類の交通手段を組み合わせた1つの移動サービスとして捉えること。
M I	Materials Informaticsの略。膨大なデータの解析から帰納的に新たな材料設計の指針を得る研究手法のこと。
N F T	Non-Fungible Token（非代替性トークン）の略。改ざんが難しいブロックチェーン技術を利用して発行されるデジタル資産。
P P A	Power Purchase Agreementの略。発電事業者が太陽光発電設備を発電事業者の負担で県施設等の敷地内に設置。発電事業者が当該設備の所有、維持管理をしたうえで発電設備から発電された電気を当該施設に供給すること。
R P A	Robotic Process Automationの略。パソコン内のソフトウェアロボットがデスクワーク業務を代行・自動化する技術。
S D G s	Sustainable Development Goalsの略。持続可能な開発目標。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標で、17のゴール・169のターゲットから構成されている。
S N S	Social Networking Serviceの略。登録された利用者同士の交流を支援するインターネット上のサービス。
U I	User Interfaceの略。利用者がパソコン等を操作する上での環境。Webサイトやアプリの扱いやすさや操作性。
U X	User Experienceの略。利用者がサービス等を利用した際の体験や経験。
W e l l - B e i n g	個人の権利や自己実現が保障され、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

用語	説明
アーカイブ	消してはいけないデータを長期保存するために、専用の保存領域に安全にデータを保存すること。
アクセシビリティ	情報やサービス、ソフトウェア等がどの程度広い範囲の人に利用可能であるかを表す言葉。
アジャイル型政策形成	アジャイルとは『すばやい』『俊敏な』という意味で、データを活用しつつ、スピーディに政策サイクルを回し、モニタリング・効果検証をしながら、柔軟に政策の見直し・改善を行っていくこと。
イノベーション	物事の「新機軸」「新結合」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」のこと。
オープンデータ	公共性の高いデータの利活用を促進するため、編集、加工、再配布等の二次利用を可能とするルールの下で提供するデータ。
カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすること。
ガバメントクラウド	政府の情報システムについて、共通的な基盤・機能を提供する複数のクラウドサービスの利用環境。
キャッシュレス決済	直接現金による授受を行わず、電子マネーやクレジットカード、スマートフォンなどを利用して、支払いや受け取りを行うこと。
クラウド(コンピューティング)	インターネットなどのネットワーク上でサービスとして提供されている、ハードウェアやソフトウェアを用いたコンピューターの利用形態。略してクラウドともいう。
クラウドサービス	従来は利用者が手元のコンピューターで利用していたデータやソフトウェアを、ネットワーク経由で、サービスとして利用者に提供するもの。
公衆無線LAN	店舗や公共空間に無線通信のアクセス機器を設置し、パソコンやスマートフォン、タブレットなどのモバイル端末による高速インターネット接続を提供するサービス。
コンソーシアム	複数の企業や組織、地方公共団体等が集まり共通の目的を持ち活動する共同事業体。

用語	説明
(サイバー)セキュリティ	電子データにより記録された情報の漏えいや改ざん等を防止するための安全性の確保。
サステナブル (サステナビリティ)	環境・社会・経済の3つの観点から世の中を持続可能にしていくという考え方。
シビックテック	シビック(Civic：市民)とテック(Tech：テクノロジー)を掛け合わせた造語。住民自身が、テクノロジーを活用して、社会課題を解決する取組。
スタートアップ	新たなビジネスモデルを考案して市場を開拓し、短期間での成長を目指す企業等。一般的には、IT企業が多い。
スマートファクトリー	AIやIoTなどのデジタル技術を活用した生産性が高く効率的な工場のこと。
ダッシュボード	複数の情報源からデータを集め、概要をまとめて一覧表示する機能や画面、ソフトウェアのこと。
データサイエンス	データを用いて新たな科学的及び社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチ。
デジタル人材	デジタル技術及びその活用方法についての知識があり、業務に活用できる人材。
デジタルデバイド	インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者の間に生じる格差。
デジタルマーケティング	デジタル技術やデジタルデータをマーケティングに活用すること。
テレコンサルテーション・カンファレンス	遠隔相談ともいう。テレビ電話等を通じて、画像を見ながら遠隔地の医師との症例検討を行うなど医師等に指導を行ったり、在宅の患者とのコミュニケーションを図ること。
テレワーク	ICを活用した時間や場所にとらわれない働き方。自宅で仕事を行う「在宅勤務」や、タブレット端末などを使用する「モバイルワーク」、本来の勤務先以外のオフィススペースで仕事をする「サテライトオフィス」の形態がある。

用語	説明
電子署名	インターネットを通じてやりとりされたデータが、正当な相手から送信されたことを暗号技術などを用いて証明する仕組み。
ドローン	遠隔操作や自動制御により無人で飛行する航空機。
ノーコードツール	ソースコードの入力が不要なツールで、プログラミングの知識がなくてもアプリ等の開発ができる。
ビッグデータ	ICTの進展に伴い生成・蓄積される膨大なデータ。
5G (ファイブジー)	移動通信方式の世代を表す規格。Gはgeneration(世代)の略で、数字が大きいほど新しい。5Gは4Gの約100倍の通信速度により、多数同時接続・超低遅延を実現。
プラットフォーム	コンピュータやアプリケーションソフトを動作させるための基盤。
フリーアドレス	従業員が固定された自分の座席や机を持たず、業務内容に合わせて働く場所を選択できる制度。
ブロックチェーン技術	暗号技術を組み合わせ、複数のコンピュータに取引情報等のデータ(台帳情報)を同期して記録する手法。分散型台帳技術とも言われる。
メタバース	コンピュータやコンピュータネットワークの中に構築された、3次元の仮想空間やそこでコミュニケーションが行えるサービス・プロダクト全般。
リカレント教育	学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すことができる教育システムのこと。
リモート(アクセス)	遠隔地にあるパソコンやサーバーを、手元のパソコンやスマートフォンなどからインターネットを経由して操作すること。
ワーケーション	Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語で、テレワークを活用し、観光地で休暇を楽しみつつ仕事を行うこと。
ワンストップ	1つの窓口だけで各種申請手続きを済ませることができること。